



かつては子どもたちも興行のどらを配って回った。

# CHALLENGER

[挑戦者たち] ②1



Izushi Eirakukan

## 出石 永楽館

鳴り響く太鼓の音、チンドン屋の行列…、永楽館で興行がある日は皆が笑顔になった。復原に立ち上がった出石の人々、足かけ二十年に渡る夢がこの夏、花開く。

### 華やかき頃の姿

「本日興行あり」。出石城下にはやし太鼓の音が鳴り響く。チンドン屋が賑やかに、興行の内容を触れ歩く。永楽館で芝居がある日。その日は大人も子供も笑顔になった。

「あの華やかき頃をもう一度」。それは、芝居小屋「永楽館」の復活にかける人たちの願いであった。

但馬たじまの小京都・出石に佇む永楽館は、明治34年、小幡家11代目久次郎によって建てられた芝居小屋である。現在も建設当時と同じ場所に建っており、場所を移さずに残る劇場建築としては国内最古、明治期から残る芝居小屋としては近畿地方に現存する唯一のものとされている。歌舞伎芝居や新派劇、寄席よせ、活動写真などが上演され、戦後は映画館

として庶民を楽しませてきた。

しかし昭和40年代に入ると、その隆盛も陰りが見え始める。他の芝居小屋と同じように主役の座をテレビに奪われて閉館。その歴史は、人々の記憶から消え去ろうとしていた。

「あの頃の活気を蘇らせたい」。永楽館で映画のスクリーンにかぶりついた、かつての子供たちが立ち上がった。

### 町づくりにかける

「永楽館を復原しよう」。その気運が盛り上がったのは、昭和62年、出石で「第1回兵庫町並みゼミ」が開催されたことがきっかけだった。

町づくりの専門家や建築家などと議論する中、参加者は出石の町並みの活性化にとって、永楽館は貴重な資源のひとつであることを思い知らされることになる。

## 百年使えます 復原で培った匠の技

### 新しい命を吹き込む「古民家蘇生」

いつも家族のそばにあった愛着ある柱や梁など、もとからある材料や空間を最大限に利用しながら蘇らせる「古民家蘇生」。昔の人々の知恵と経験により生み出された伝統ある技術は、職人の技に守られ、これからも次代に引継がれてゆきます。



上段左より:松永道和 水口和也 今井直樹 山口みちる  
下段左より:村田三喜男 田中定 田中克己



風景になる、仕事。  
**株式会社川嶋建設**

本社/兵庫県豊岡市寿町11番35号  
出石本店/兵庫県豊岡市出石町町分396番地の2  
プロテックセンター/兵庫県豊岡市香住15番地の1

永楽館も復原させた「古民家蘇生」の匠の技を!

川嶋建設 検索 詳細はWEBで

TEL.0796-22-4321/FAX.0796-22-5939



復原前の永楽館。



刺激を受けた参加者たちは、翌年、出石の町並み保存を活動の主とする「出石城下町を活かす会」を結成。会には、建築関係はもちろん、ありとあらゆる分野の人々が集い、総勢150名を越えた。

副会長を務め、後に復原工事の設計を担う福岡は、「城下町という古い町並みに育った出石の人間には、昔のものを大切にするという気質が潜在的に培われていたんじゃないかと思います」と当時を振り返る。

その後、劇場建築の専門家を招いての語る会の開催や、伝統家並みシンポジウムで取り上げられるなどの地道な活動が実を結び、いつしか多くの町民から「永楽館復活」の声が聞かれるようになった。

しかし、永楽館が再び日の目を見るまでには、さらなるハードルが待ち受けていた。

### 残されたハードル

永楽館の大きな価値のひとつ。それは、回り舞台や花道、奈落など、芝居小屋に必要な装置を持つ劇場建築が、一個人によつて建てられ、管理されてきたことにある。閉館された後も、小幡家による懸命な管理の末、ほぼ原型をとどめたまま保存されてきた。

復原に向けて残されたハードル。それは建物が個人の所有物であり、修復するにもかなりの費用を要することであった。今後の活用に向けた復原計画がいまいならば、永楽館をつぶす事態にもなりかねない。

再生計画を何度も話し合う会のメンバーたち。復原には、行政を動かすしかない。「永楽館」を復原することの重要性を説得する日々が続いた。

そうした努力の甲斐もあり、平成10年、建物は町へ寄付されることになる。その後、土地も譲られる運びとなり、復原に向けたプロジェクトが動き出す。「兵庫町並みゼミ」が開催されて、約10年が経とうとしていた。

### 「復原」への布石

平成10年4月28日、出石町（現・豊岡市）の指定文化財となった永楽館。復原に向けての建物調査が始まった。

文化財の「復原」は、創建時の材料・工法で傷んでいる箇所だけを繕い、根拠に基づき忠実に元の姿に戻すという意味がある。推測で修復する「復元」とは違い、手間と根気のいる作業が必要とされる。

復原の目標は、永楽館が芝居小屋として最も華やかだった大正11年頃の姿に戻すこと。当時のことを知る人は少ない。

国内産にこだわった  
人気の作太郎の出石そば、  
大切な方へのお中元に。

# 作太郎

自家製粉本物の味  
出石そば

出石そば製造販売・そば製粉  
**今森製麺所**  
製造直売 全国発送  
〒668-0263  
兵庫県豊岡市出石町福住329  
Tel. **0796-52-3816**  
Fax. **0796-52-6426**

口コミで広がった評判のおそば  
本当にいい物だけを作っています

●出石そば（生・半生・乾）  
●祝事・仏事・ご贈答品に  
●各種種類・そば粉販売

**純生そば・自家製だし付  
好評発売中!!**





回り舞台の修復の様子(左)・看板も色を塗り直し、鮮やかに復元された(右)



「とにかく当時の様子を知りたい」と思いました。建設当時の原型はとどめているとはいえ、昭和初期から映画上映が行われるようになって、映写室を設けるなど何度か改修されています。忠実に再現するため、当時の従業員を中心にお話を伺いました。内部を一番よく知るお茶子さんが、数年前に亡くなっていたのは残念でした」と、設計士の福岡は語る。

計6回にも渡る聞き取り調査。丹念に昔の足跡をたどった結果、昔の図面や資料では読みとれなかった売店の位置が分かるなどの収穫をもたらした。分からない場所は、全国の芝居小屋を見て回って参考にしました。

活き活きと蘇る永楽館の姿。「再び、この場所で芝居が見たい」。そんな気持ち自然と湧いた。

「耐火など劇場としての機能をもたせること、文化財としてできるだけ昔のままに残すこととの間で建築基準を満たすため、とても大変でした。文化財を扱うのは初めてだったこともあり、毎晩徹夜で資料をつかったものです」と、福岡。

そうした苦勞の末、工事着手に必要な条件が揃った平成18年秋、いよいよ本格的な復原工事が始まる。そして、ここから古林家蘇生のスペシャルリストが立ち上がった。

### 匠の技、伝統の技術

「痛みが激しいな」。棟梁の田中は、建物調査を進めるにあたりそう思った。出石が地元の田中棟梁は、大工歴55年の大ベテラン。阪神大震災で全壊判定を受けた、築後280年の歴史を持つ旧家の蘇生を始め、数々の古民家を蘇らせてきた。工事を請け負う前から調査に関わってきただけに、永楽館への想いはひとしおだった。

「戦後の貧しい時代、大工仕事は古い建物を補修することがほとんどでした。古林家蘇生の仕事に携わるようになってから、そうした古来の伝統技術を身に付けることが役に立っています。これまでの経験をすべて投入する想いで取り組みました」。

ボルトを使わない伝統の工法は、木の癖を見極めることが重要である。柱の腐った箇所を取り除き、別の木材を継ぎ足しする際にも、なるべく同じ年代、同じ性質の木材を使う。古林家蘇生のため、取りためておいた古材を惜しみなく投入した。

工法は、基礎と軸組だけを残して、その他はすべて一旦撤去する「半解体工法」がとられた。とり外した部材は、修復後、元の位置に戻すため、ひとつひとつ番号が記される。図面に控えられた番号は、千を越えた。

**出石シルクギャラリー**  
 9時～17時 無休 & いおし天然工房  
 兵庫県豊岡市出石町内町87-3 TEL.0796-52-6808

**永楽館復刻記念 出石特産掘出市!**

**特典①** シルクギャラリーで買いあげの方に  
 天然シルクのカ「まゆ玉」プレゼント

**特典②** 天然工房で3,000円以上  
 買いあげの方に  
 「ビジネスバッグ」プレゼント

シルクスキンケアセットが人気!はぎれや小巻などの種類も豊富。

献上「オリジナルシルク」出石シルクギャラリー



取り外した部材は細かく図面へナンバリングされた。



工事見学会で様子の説明をする田中棟梁。



はがしとった古い土と新しい土が混ぜ合わされた壁土。ワラスサを混ぜた後、音ながらに半年以上かけて練り合わされた。

過去の修復で無くなったものは、残っている痕跡を丁寧に調べて復原の抜けのない作業が続いた。それでも文化財の復原は、今までの古民家蘇生と違い、とまどうことも多かったという。

「文化財は忠実に再現することが重要で、さわり過ぎてはいけません。古民家蘇生でも意図的に傷跡は残しますが、ある程度使いやすいうちに修復します。復原は調査から始まり、大変手間のいる作業です。不慣れた部分も残るので、仕事が評価されにくいというジレンマもありました」と、田中棟梁は語る。

時には設計を巡って、福岡と議論になることもあった。

「設計士として一番苦労したのは、部材の取り替えの判断です。古いものはなるべく残すことが前提。耐久性を考慮しながらの判断は、勇気が

いるものでした。棟梁には助けられたことも多かったです」とは、福岡。現場とスクラムを組んで進められた工事は、平成20年夏、完成を迎える。

### 活きた劇場建築として

大正時代の輝きをそのままに、忠実に復原された永楽館。完成後の8月には柿落大歌舞伎が上演され、拍手喝采で湧いた往時の姿が蘇る。

「2年という期間の長い工事、よくここまでできたなど感慨深いものがあります。大勢の人の協力を得て、いい仕事ができました」とは、田中棟梁。忠実に再現するという文化財の修復に、試行錯誤しながら取り組んだ設計士の福岡はこう語る。

「永楽館は個人が建てたこともあり、費用がかからないように仕上げてあります。他の所で使用していた部材が数多く転用されているので

す。二階外側の窓枠は水色なんです。これは明治期の弘道小学校で使われたもの。和風の建物に青い洋風の窓はミスマッチで、建築家としては取り替えたい所です。しかし、この窓も忠実に復原しています。そうした永楽館の価値を見て欲しいですね」。

足かけ20年に渡った永楽館の復原。今後は活用に向けて課題も多い。「永楽館をどう使って欲しいですか」と、最後にぶつけた質問。奇しくも返ってきた答えは二人とも同じだった。

「芝居でもコンサートでも何でもいから、市民に幅広く活用してもらいたい。活きた劇場として、1000年、1500年と使い続けて欲しい」。

その答えには、永楽館が真に輝きを取り戻すヒントが隠されている。

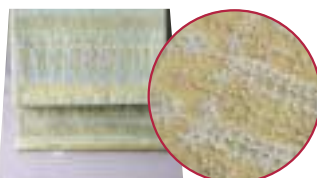
協力：福岡建築事務所代表・福岡隆夫さん、川嶋建設棟梁・田中定さん、豊岡市教育委員会出石分室

## 大人のあなたに… 愉しいきもの

シンプルな配色に  
独特の風情を醸し出して、  
抑えめな華やかさを演出した  
大人の着こなしをご提案します。

◀ 笹仙の緋紅梅小紋とポーラ紺八寸帯

やわらかな配色と  
グラデーション変化の配色。  
大人のかわいらしさを演出した  
クロスオーバーファッションのご提案。



◀ 2008「きものサロン」夏号  
掲載のさから刺繍 紗袋帯と  
ホタルボカシ染 夏用小紋



### おしゃれきもの 野木纏家

京都府京丹后市大宮町口大野173番地  
電話：0772-64-2241  
営業時間：10:00～19:00 定休日：水曜日  
(のぎまとや) <http://www.nogimatoya.jp/>